

東京フィルメックス特別企画



繻子の靴

フランスを代表する詩人・劇作家ポール・クロードルが
外交官として日本に赴任中(1921-1927)に書き上げた長大な戯曲『繻子の靴』を、
ポルトガル映画の巨匠マノエル・ド・オリヴェイラが映画化した
上映時間7時間に及ぶ大作。ヴェネチア映画祭特別金獅子賞。

1985年 / 410分 / 35mm / 日本語字幕

2020年11月22日(日)
有楽町朝日ホール

11月26日(木) - 28日(土)
アテネ・フランセ文化センター
(御茶ノ水)

LE SOULIER DE SATIN
de Manoel de Oliveira

マノエル・ド・オリヴェイラ監督の大作、
日本初上映

【主催】東京フィルメックス / アテネ・フランセ文化センター 【共催】朝日新聞社 (11月22日有楽町朝日ホール)

【後援】アンスタイチュ・フランセ日本 / ポルトガル大使館 / カモンイス言語国際協力機構 / シネマテッカ・ポルトゲーザ

【協力】コミュニケーションセンター / 映画美学校 【作品提供】Le Petit Bureau

INTERNATIONAL FILM FESTIVAL
T O K Y O
FILMEX

ATHÉNÉE FRANÇAIS
CULTURAL CENTER
アテネ・フランセ文化センター

INSTITUT
FRANÇAIS
アンスタイチュ・フランセ日本
Japan

CAMÕES
INSTITUTO
DA COOPERAÇÃO
E DA LÍNGUA
PORTUGAL
MINISTÉRIO DOS NEGÓCIOS ESTRANGEIROS

COOPERAÇÃO
PORTUGUESA

JAPAN
COMMUNITY
CINEMA
CENTER

映画美学校
THE FILM SCHOOL OF JAPAN



【監督・翻案】マノエル・ド・オリヴェイラ

【原作】ポール・クロードル

【文学顧問】ジャック・パルシ

【撮影監督】エルソ・ロケ

【録音】ジョアキン・ピント

【音楽】ジョアン・パエス

【製作総指揮】パウロ・ブランコ

【出演】ルイス・ミゲル・シントラ、パトリシア・バルジク、アンヌ・コンシニー、
ジャン＝ピエール・ベルナル、アンヌ・ゴティエ、イザベル・ヴェンガルテン

11月22日(日)

有楽町朝日ホール

東京都千代田区有楽町2-5-1
有楽町マリオン11F

12:00-14:16 第1部 (2時間16分)

【休憩30分】

14:46-17:09 第2部 (2時間23分)

【休憩30分】

17:39-19:49 第3部 (2時間10分)

11月26日(木)–28日(土)

アテネ・フランセ文化センター(御茶ノ水)

東京都千代田区神田駿河台2-11
アテネ・フランセ4F

13:00-15:16 第1部 (2時間16分)

【休憩20分】

15:36-17:59 第2部 (2時間23分)

【休憩20分】

18:19-20:29 第3部 (2時間10分)

11月28日(土)の上映終了後(20:30-)、
四方田犬彦氏(比較文学者・映画史家)による
トークを予定しております。

「神は曲がりくねった線で真っ直ぐに書く」

舞台は16世紀の大航海時代。スペイン国の大審問官ペラジオの若き妻プルエーズは秘かに愛する騎士ロドリゴとの逢瀬を図る一方、背教者カミロが彼女へと言い寄る……。野心に溢れた征服者たちが策略を巡らせるなか、プルエーズとロドリゴの二人はすれ違い続け、「禁じられた愛」の運命はヨーロッパ、アフリカ、アメリカ、アジアと海を越えて経めぐる。その果てに魂の救済は訪れるのか？

『フランシスカ』に至る『満たされぬ愛』4部作を完成させたオリヴェイラが次に取り組んだのは、ポール・クロードルの戯曲『縋子の靴』の映画化。詩人・劇作家にして外交官も歴任したクロードルが、関東大震災を経験した日本赴任中に書き上げた『縋子の靴』(渡辺守章訳、岩波文庫)は、あまりの長大さにこれまで上演された機会も数少ないが、3部構成のオリヴェイラ版は所々を切り詰めつつ、台詞は原文を忠実に踏襲している。フランス演劇史の記念碑的作品を原作に得た映画『縋子の靴』では、演劇と映画というジャンルを横断すべく、オリヴェイラならではの果敢な試みがなされている。

後にオリヴェイラ作品の常連となる名優ルイス・ミゲル・シントラが主人公ロドリゴを演じ、ブレッソン『白夜』で知られるイザベル・ヴェンガルテンも「守護天使」役で出演する。第3部には日本人絵師「大仏」も登場。

マノエル・ド・オリヴェイラ | Manoel de Oliveira

1908年12月11日、ポルトガル・ポルト生まれ。31年に初監督作『ドウロ河』を撮り、42年に初の劇場用長篇映画『アニキ・ボボ』を発表。家業を手がけつつ映画制作を続け、約20年ぶりに長篇第2作『春の劇』(63)を公開するも、「ポルトガルには検閲が存在する」という発言によって投獄される。10年近くを経た長篇第3作『過去と現在 昔の恋、今の恋』(72)を皮切りに、74年の独裁政権終焉をまたいで、『ベルニデまたは聖母』(75)、『破滅の愛』(78)、『フランシスカ』(81)の『満たされぬ愛』4部作を完成。以来、『縋子の靴』(85)でも協働したプロデューサーのパウロ・ブランコと組んで、傑作を次々と世に送り出す。『カニバイシュ』(88)、『ノン、あるいは支配の虚しい栄光』(90)、『アブラハム溪谷』(93)、『階段通りの人々』(94)、『クレーズの奥方』(99)、『家路』(01)、『永遠の語らい』(03)などなど。さらに100歳を前後して、『夜顔』(06)、『ブロード娘は過激に美しく』(09)、『アンジェリカの微笑み』(10)、『家族の灯り』(12)と、旺盛に撮影を続けていたが、2015年4月2日、106歳で他界。

『縋子の靴』上映記念カタログ | 四方田犬彦、ジョアン・ベナル・ダ・コスタらによる評論などを収録。

【問合わせ】

東京フィルムメックス事務局 | 03-6258-0333 | <https://filmex.jp/2020/ticket>

アテネ・フランセ文化センター | 03-3291-4339 (13:00-20:00) | infor@athence.net

チケット

料金 5,000円 (上映記念カタログ付)

購入方法

PassMarketで購入ご購入下さい。
(いずれの会場でもチケットは販売いたしません。)
<https://passmarket.yahoo.co.jp/>

※PassMarketは、Yahoo! JAPANのデジタルチケット販売システムです。発券・システム利用料はかかりません。スマートフォン、メールにて受取となります。

会場でのチケットは販売いたしません。あらかじめPassMarketにてご購入ください。コンビニ決済のみ別途決済手数料がかかります。

販売期間:

10月17日(土) 0:00～各プログラムの上映開始まで
車椅子でご来場されるお客様は、ご鑑賞方法によりお申込み方法が異なります。詳細は東京フィルムメックス公式HPの「チケット」をご確認ください。

▶有楽町朝日ホール 350席使用

全席指定席制

(座席エリア指定となり、お座席の指定はできません)

座席エリアは「舞台前」「前方」「中央」「後方」の各エリアから「右ブロック」「中央ブロック」「左ブロック」いずれかを選んでご購入できます。なお、「舞台前」の席は可動席です。「舞台前」「前方」は段差がありません。

会場での飲食物の販売はございません。お飲み物はご持参ください。

▶アテネ・フランセ文化センター 79席使用

自由席(整理番号入場制)

※本作品のプリントは製作から年数が経過しているため、状態が良好でない箇所がございます。あらかじめご了承下さい。